

平成23年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：阿部泰記・湯川洋司

研究分担者：坪郷英彦、平野芳信、根ヶ山徹、森野正弘

研究協力者：王秋陽

○研究の概要と結果

伝承文化を見直す観点に立ち、東アジアにおける文化伝承の形態とその価値を明らかにするため、前年度に続いて文学と民俗の方面から具体的な研究を進める。

1. 物語文学の生成に関する研究を行う。物語文学は先行する説話を吸収しながら成立した。そこで本研究では日本古代における物語文学がいかなる説話伝承の影響を受けているのかについて解明する。(担当：森野正弘)

2. 今年度は文化伝承の問題を日本近代文学の諸作品における〈食べもの〉を視座として考察し、その成果を「〈食〉と日本近現代文学史」として発表する予定である。(担当：平野芳信)

3. 本年度は『牡丹亭還魂記』の万暦年間の刻本及び補版、重刊本について精査し、石林居士序刻本が最も古く、補版として万暦間刻本が出版され、朱元鎮校刻本、朱氏玉海堂刻本については重刊本であることを明らかにした。後に数多く出版される別系統の版本とは異なり、石林居士序刻本は原作の面目を保つものとして重要であることを解明した。(担当：根ヶ山徹)

4. 本年度は『六諭衍義』の伝承の諸相を明らかにするため、中国や小野藩・土佐藩等の蔵書を調査して関係資料を収集し、中国と日本の庶民教育における『六諭』文化の影響を考察した。(担当：阿部泰記)

5. 今年度は秋田県仙北市角館町の「角館のやま行事」で中心的役割を示す山車についての調査分析を行った。すでに調査を実施し、図面化した山車について、以前からの変化点を聞き、組織・制度的な変化は少なく、山車の形態的变化が大きい事を明らかにした。(担当：坪郷英彦)

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

森野正弘、「源氏文化」研究の伸張とマイナーなものへの視線、文学・語学、第201号、2012年11月30日、P76～79

根ヶ山徹、石林居士序刻本《牡丹亭還魂記》与其補版、重刊本簡説、『湯顕祖研究通説』、2012年第1期（総第15期）、平成24年9月、50頁～56頁。（平成23年度中に投稿。印刷完成は平成24年9月）

阿部泰記、山東の宣講書『宣講宝銘』残巻について、山口大学文学会志、62巻、2012年2月29日、P1～15

阿部泰記、湖北の宣講書『勸善録』残巻について、アジアの歴史と文化、16輯、2012年3月31日、

P 1~15

阿部泰記、中日宣講聖論的話語流動、興大中文学報、33期、2013年6月出版予定、頁数未定。

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

森野正弘、進行と遡行—『源氏物語』における時間の表象—、山口大学時間学研究所：時間学セミナー—物語あるいは人生の時間—、2012年2月23日

阿部泰記、山東の宣講書『宣講宝銘』について、山口中国学会、2011年12月17日

阿部泰記、中日宣講聖論的話語流動、第九屆通俗文學與雅正文學—「話語的流動」國際學術研討會、2012年3月17日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

平野芳信、『食べる日本近現代文学史』、光文社、2013年2月20日、206頁

○プロジェクト名

東アジアにおける医療供給体制と企業の役割

○研究組織

研究代表者：李 海峰・石田成則

研究分担者：中田範夫・城下賢吾・有村貞則

研究協力者：

○研究の概要と結果

これまで継続してきた研究プロジェクトでは、企業経営および市場の視点から、主に東アジアに進出しているグローバル企業の実態調査に従事し、その経営戦略、組織そして人材育成について研究してきた。一昨年度からは、主に病院を中心とした医療施設・介護福祉施設経営のあり方と医療供給体制や医療費管理に果たす企業の役割に焦点を絞り、それを理論と実証の観点から分析してきた。また、東アジアのなかでも中国に焦点を絞り、医療経営を取り巻く環境変化について、医療保険の改革や医療機関に対する規制について研究してきた。今後は、中国における医療政策と病院経営の実態調査結果を踏まえつつ、こうした産業・事業における問題点を抽出し、その解決のために政策提言を行う。具体的には、医療関係機関に対するアンケートおよびインタビュー調査を実施し、その統計的解析から、現状と問題点を明らかにする。そのうえで、優れた経営力を持つ施設については事例研究として取りまとめ、成功要因を一般化する。とくに、患者や施設利用者へのサービス水準を向上させるために、どのような会計制度や組織管理体制を構築すべきか、またどのように人材を養成すべきかについて考察を加える。そして、実態に即した、効果的な病院や福祉施設マネジメントについて提言を行う。

これまでわが国で実施した実態調査とその分析をもとに、中国の医療・福祉施設マネジメントの事例を収集することにより、日中間の国際比較分析を展開する。まず、中国における地方都市の医療供給体制を詳細に分析するために、文献を収集し、その概要を纏める。また、医療サービス供給と医療保険制度、医療政策の問題点について、財政面と運用の効率性や公平性の観点から考察を加える。こうした理論分析の後に、医療・福祉施設の実態的な経営上の問題点を明らかに

するために、中国における医療供給体制の実態・実証分析を展開する。当該プロジェクトメンバーの多くは、日本国内において、医療・福祉施設の実態調査および企業福祉の実態調査経験があり、同様な手法により海外調査を実施する。国際比較分析では、まず第一に、費用負担面に着目し、個人・家計、企業・事業主そして国庫負担の割合から、財政的な健全性について検証を行う。同時に、企業内の医療福祉にかかる会計・管理組織を把握することで、医療制度に対する企業・事業主の関わりについて検討する。第二に、個別の医療・福祉施設における経営問題について、国際比較の観点も踏まえて実証分析する。以前には、わが国の実態調査を中心にし、インタビューやアンケートなどの手法により、個別データを収集し分析することで、会計制度やリスク管理体制について提言を行った。一昨年度からは、中国の医療・福祉施設経営の動向と個別企業における企業福祉のあり方を実態的に調査する準備を進めた。とくに、病院経営を取り巻く環境変化として、2003年に導入された新型合作医療保険を取り上げ、地域別の医療費への影響を考察することで、それが中央と地方の医療格差を助長しかねないことを指摘し、その解決のために必要な制度上の改善策を提起した。実はこうした地域間の医療格差問題はわが国でも発生している。昨年度は、日中での地域間医療格差が発生するメカニズムを解明し、その是正策を提案するために、理論的考察だけでなく、中国の現地調査も踏まえた実態・実証分析を行った。そして、地域間の医療格差を是正し、過剰な医療費・診療費を抑止するために、個別の病院・福祉施設をどのように効率的に管理・運営していくべきかを提言した。

今後は、日本や中国を中心とした東アジア諸国における医療・介護サービス供給体制の比較分析を行うことで、各国の医療政策に対して提言を与える。とくに、高齢化が深刻な中国の地方都市事例に関する実態調査はあまり類例がなく、実態分析に基づく政策提言には一定の説得力が期待できる。また、東アジアに展開するグローバル企業に対しても、東アジア諸国の実情に合わせた企業福祉のあり方を提案できることになり、労使関係の安定や労働生産性の向上にも寄与することになる。こうした企業福祉の多くは、人件費として計上されるために、企業利益にマイナスの影響を及ぼし、その足枷になるとされる。各国の医療政策を比較検討することは、グローバル競争下における企業行動を考察するうえでも必須である。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

中田範夫・杉 和郎・花田千鶴美「業務改善に関する調査研究（2011年）－在院日数の短縮に重点を置いて－」『山口経済学雑誌』第61巻第1号、平成24年5月、31－58頁

中田範夫・花田千鶴美「国立大学法人化に関するアンケート調査－ある病院のケース－」、『東亜経済研究』第71巻第1号、2012年8月

城下賢吾・木下真「退職ポートフォリオ分析－モンテカルロシミュレーションとオーバーラッピング法を使って－」『山口経済学雑誌』第60巻第6号、平成24年3月、55－84頁

石田成則「「製販分離」による保険業の新たなビジネス・モデル」『MS & AD基礎研 レビュー』第11号、2012年3月6日、12－21頁

石田成則「老後所得保障の総合政策－もうひとつの一体改革－」『週刊社会保障』第2670号、2012年3月19日、46－51頁

石田成則・張暎・王艶莉「中国新型合作医療保険制度の効率性改善への検証」『保険研究』第64集、2012年8月31日、71-96頁

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

城下賢吾・木下真「退職ポートフォリオと維持可能引き出し率」証券経済学会全国大会、関東学院大学、2012年6月10日

城下賢吾・木下真「退職ポートフォリオの維持可能性」生活経済学会中国部会、岡山大学、2012年11月24日

石田成則・周華「企業年金のガバナンス」日本年金学会山口部会、山口大学、2012年3月17日

Masatoshi SUGINO & Shigenori ISHIDA, *The Organizational Structure and Management Performance of Mutual Holding Company in the US*, APRIA 16th Conference in Korea, 2012.7.24

石田成則・杉野允俊「米国持株相互会社の組織構造とマネジメントのパフォーマンスに関する研究」生活経済学会中国部会、岡山大学、2012年11月24日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

城下賢吾「ファイナンスの基本的な考え方」榊原茂樹・岡田克彦編著『1からのファイナンス』碩学社、2012年4月30日、21-36ページ

○プロジェクト名

東アジアに固有の格差の実態と推移に関する総合的・実証的比較研究

○研究組織

研究代表者：植村高久・塚田広人・横田伸子

研究分担者：横田尚俊・渡邊幹雄・濱島清史・朝水宗彦・角田由佳・陳 建平・石川耕三・袁 麗暉・福田吉治・小柴久子

研究協力者：韓 慧・HANNY ZURINA INTI HAMZAH・KARKI PURNA BAHADUR・常 山・正長清志・蘇 傑・NI MADE SOFIA WIJAYA

○研究の概要と結果

（日本を除く）東アジアの経済発展は急速な新興富裕層・新興中間層の増大を伴いつつ、概して格差拡大として特徴付けられる「新しい格差」の発生と複雑な動態的变化が進むという固有の特徴を持つ。これはヨーロッパ諸国やアメリカとは明らかに異質で、たんなる所得の格差を超えて、教育・医療・生活環境・コミュニティのあり方等、非常に多面的なアクセス可能性の違いという特徴を示している。格差拡大が大きなテーマになっている日本も含めて（さらに東アジア以外の諸国との対比も交えつつ）、こうした東アジア諸国の格差について、各国ごとの差異と共通性に注目しつつ、その全体像と側面間のつながりを明らかにすることがこの研究の第1の目的である。

さらに、東アジア諸国の多くが急速な経済発展の途上で急激な高齢化を迎えることが将来の深刻な問題をもたらす可能性が高い。旧来の社会の分解が進んだため高齢化に対処するための公的

社会保障制度の整備が必要となるが、ふつう社会保障制度（年金等）は制度創設から定常的な機能に至るまでかなりの期間を要する。この点を考慮すれば、格差が生む問題が高齢化によって顕現・深刻化し、非常に厳しい社会問題に発展する事態が予想される。本研究は格差の実態とともに将来に向けた推移と社会保障制度などの整備状況を検討することを通じて、急速な高齢化の社会的意義を解明することを第2の目的にする。

研究期間は3年とし、成果は研究期間終了後に図書として刊行する予定である。

本年度の研究内容は主に研究計画立案と予備調査だった。来年度の本調査のための資料・文献等の収集、現地研究者との研究協力関係の確立・開拓、現地調査地点の選定と実際の調査可能範囲の確認、等が内容であった。

- ① ワークショップを開催し、予備調査計画を策定した。
- ② 3カ国程度4回の予備調査を実施した。国内に存在する資料調査を実施した。
- ③ 予備調査で明らかになった研究上の問題点等を検討し、本調査に向けた各研究領域・各国の焦点を確認・共有化した。
- ④ 前回プロジェクトの成果を共著書『東アジアの格差社会』のとりまとめ作業を行った。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）（一部のみ）

植村高久「物神性と商品」2012（平成24）年1月『季刊 経済理論』第48巻第4号、経済理論学会、40-51ページ

横田伸子「1990年代以降の韓国における労働力の非正規化とジェンダー構造」法政大学大原社会問題研究所『大原社会問題研究所雑誌』No.632,2011年6月。

朝水宗彦「格差社会の緩和に向けた観光に関する基礎研究」『日本観光研究学会全国大会学術論文集』26, 2011年12月

横田尚俊「開発と福祉 総説」（共著：274～279頁）、「広域行政」（186～187頁）、「〈都市縮小〉とコンパクトシティ」（地域社会学会編『新訂 キーワード社会学』ハーベスト社、2011年5月、所収）

浜島清史「シンガポールにおける高齢者福祉と施設介護」『社会科学研究（東京大学社会科学研究所紀要）』「特集 東アジアの福祉システム：所得保障と雇用保障」2012年第63巻第5・6号、pp.131-148

袁麗暉「中国農民工医療保険制度について—その歴史的背景と現状を中心に」『東亜経済研究』70巻1.2合併号 発行：2012.1

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

(3) 著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

塚田広人・横田伸子編『東アジアの格差社会』御茶ノ水書房。1年度刊行に向けて、編纂作業中。

○プロジェクト名

東アジアにおける教育の現代的課題の探究

○研究組織

研究代表者：福田隆眞、葛 崎偉

研究分担者：石井由理、有元光彦、松岡勝彦、森下 徹、村上林造、西村正登、名島潤慈、
藤原マリ子

研究協力者：

○研究の概要と結果

東アジアにおける教育の現代的課題を、教育学、教育心理学、教科教育、教科内容学の分野から探究し、問題解決を行った。

今後の課題：上記のような個々の分野での教育の問題解決の後、それらの成果を統合的に扱い、次年度から「アジアにおけるグローバル化と伝統文化の教育」という研究課題を設定することとした。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

教育学

1. 石井由理(2011)「タイの若者のタイの音楽に対する認識」『山口大学教育学部研究論叢』(3) 1-12。
2. Ishii, Yuri (2011) "Education and Social Division in East Asia." The 4th Worldwide Forum for Comparative Education
教科内容学
1. 村上林造、「愛、言葉、『待つ』こと一漱石『夢十夜』第一夜、第五夜をめぐって」(「青燈」創刊号 2011.5.31)
2. 村上林造、「歴史を生きる人間の表現—森鷗外『阿部一族』をめぐって」(「青燈」第2号 2011.11.30)
3. 有元光彦、『県別 罵詈雑言辞典』真田信治・友定賢治編，東京堂出版，2011年，共著
4. 有元光彦、「長崎県本土西南部方言の動詞テ形における形態音韻現象」、『九州大学言語学論集』第32号，2011年，単著
5. 有元光彦、「単語販売に関する経済言語学的試論」、『研究論叢(山口大学教育学部)』第61巻・第1部，2012年，単著
6. 森下徹、「近世大阪の運輸労働者」(「上海国際シンポジウム 東アジアにおける都市社会史への視点」にて報告)(2012年3月1～2日、於上海大学)
7. 葛崎偉“カーネルセットによるセンサー位置特定の一手法”，第24 回回路とシステムワークショップ，pp.449-454 (2011) (共著)

8. 葛崎 偉“A Proposal of Block Division for Task Graphs,” Proc. ITC-CSCC2011, CD-ROM (2011).(共著)
9. 葛崎 偉An Improved Recognition Method for Consecutive Handwritten Characters by Feature Graph”, Proc. ITC-CSCC2011, CD-ROM (2011).(共著)
10. 福田隆眞、「視覚言語の教材について」(『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第33号』)、2012
11. 福田隆眞、「マレーシアの新しい美術教育課程の計画」(『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第33号』)、2012
(2) 口頭発表(発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)
教育学
1. Ishii, Yuri (2012) "Diverse, dynamic and integrated: A glance at Japanese musical culture through a case study of the perception of Japanese music by university students and people over sixty years old" 11th CDIME Conference, January, 4-6. 査読付きプロシーディングス掲載。
(3) 著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)